

第 42 回レーザーセンシングシンポジウム開催趣意書

第 42 回レーザーセンシングシンポジウム

実行委員長 (公財) レーザー技術総合研究所 染川 智弘

レーザーセンシングシンポジウムは、1972 年に開催された第 1 回レーザー・レーダシンポジウムから始まり、第 12 回からは現在の名称に変更され、シンポジウムは通算 42 回目となります。本シンポジウムは国内最大のレーザーレーダ (ライダー) に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザーセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

第 1 回レーザー・レーダシンポジウム開催に際して、日本のライダー研究の先駆者である稲場文男東北大学教授を会長としてレーザー・レーダ研究会が組織され、シンポジウムの継続的な開催やレーザーセンシング技術の向上と普及に関する活動を進めてきました。また、レーザー・レーダ研究会は、日本で開催された過去 3 回の国際レーザーレーダ会議 (ILRC) (1974 年仙台、1994 年仙台、2006 年奈良) の現地実行委員会を構成するなど、国際的な活動にも貢献してきました。2018 年からは「レーザーセンシング学会」と改称し、新たに学会としての活動をスタートさせ、2022 年 2 月には「一般社団法人レーザーセンシング学会」として正式に法人登記されました。

レーザーセンシングシンポジウムでは、ライダー、レーザー、レーザー分光、レーザー計測など、幅広いレーザーセンシング技術の開発と応用に関する学術成果や、今後の研究についての提案・展望などが幅広く発表されます。前回は 2023 年 9 月 6~8 日に茨城県つくば市の文部科学省研究交流センターで開催され、現地 103 名、オンライン 10 名の参加者があり、口頭 30 件、ポスター 22 件の一般講演と 2 件の特別講演、企業展示 12 件が行われました。本年は、大阪市の大阪大学中之島センターを主会場として開催することになりました。

第 1 回レーザー・レーダシンポジウムが開催されてから 52 年が経過した今では、ライダーはスマートフォンにも搭載される身近な技術になっており、今後も自動運転技術における安全性の向上や、気象予測精度の向上といった生活に直結した応用も期待されます。本シンポジウムはこれまでレーザーセンシングの装置開発、計測技術、データ解析、運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、大気・海洋・気象・環境科学関係の研究者が発表および情報交換を行う場として、重要な役割を担ってきました。本シンポジウムでも、急速に発展するレーザーを中心とした光センシングに関する幅広い分野の話題を取り上げる予定です。

今回の会場となる大阪市は、2025 年 4 月に開催予定である大阪・関西万博に向けて準備が急ピッチで進められており、活気にあふれています。また、大阪大学中之島センターは、2004 年に大阪大学の発祥地である「中之島」に開設され、大阪大学創立 90 周年・大阪外国語大学創立 100 周年記念事業として 2023 年 4 月にリニューアルしたばかりです。この新しい産学共創の場で、レーザーセンシング技術に関連した皆様の交流が促進されることを期待しております。

研究者ならびに技術者、協賛企業の皆様のご参加を心よりお待ちしております。